

東京都は都市づくりの現状や課題などをまとめた冊子「東京都市白書」を14年ぶりに復活させた。2002年を最後に発行していなかったが、20年の東京五輪・パラリンピックを控え、若者や外国人客など幅広い層に読んでもらい、東京への関心を高める狙いだ。

都市白書はB5判、60ページで、都市機能や産業、文化などさまざまな切り口で街を紹介している。都市づくりの専門家や音楽家、農家などのコメントも盛り込んだ。地図を中心

「都市白書」14年ぶり復活

都、4ヵ国語で街の魅力紹介

に写真やグラフなどを多用。トレーシングペーパーで江戸時代と現在の東京の地図を重ねてみられるようにするなど、視覚的にも工夫を凝らした。

日本語版のほか英語・中国語・韓国語版を用意し、6月以降に順次、発売する。価格は未定。日本語と英語版はすでに都市整備局のホームページを通じて無料で公開している。都は「東京が向かっていく方向性について考えるきっかけにしてほしい」（都市づくり政策部）と話している。